

一般国道121号 日光地区防災事業 自然環境保全対策検討会【第1回】

議事要旨

出席者

○検討会委員

	氏 名	所 属	備考（専門分野）
会 長	青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部 教授	植物
委 員	小金澤 正昭	宇都宮大学 特任教授	哺乳類
委 員	遠藤 孝一	日本野鳥の会栃木県支部 副支部長	鳥類
委 員	林 光武	栃木県立博物館 学芸部長兼自然課長	両生類、爬虫類

○オブザーバー

国土交通省宇都宮国道事務所

石塚浩一 計画課 建設専門官
福田祐司 計画課 専門官

○事務局

栃木県日光土木事務所

阿久津政巳 次長兼企画調査部長
高橋 徹 部長補佐(総括)兼企画調査課長
秋澤 賢 企画調査課 部長補佐

栃木県県土整備部交通政策課

原田和彦 道路計画担当 課長補佐(GL)
石田 光 道路計画担当 技師

株式会社ダイミック(調査受託会社)

山本修一
渡邊 豊
小村知晃

1. 日 時 : 令和2(2020)年12月18日(金) 17:05~18:15

2. 方 式 : オンライン会議(Zoom)



4. 次 第 : 開会

あいさつ

自己紹介

検討会設立

議事

- 1 一般国道 121 号 日光地区防災事業について
- 2 事前ヒアリングの結果について
- 3 これまでの調査結果について
- 4 今後の現地調査計画(案)について
- 5 その他

閉会

5. 議事要旨

検討会設立

設立趣意書(案)、規約(案)は、検討会で承認され、12月18日付けで施行とする。

議事

1 一般国道 121 号 日光地区防災事業について

資料 1 をもとに事務局より説明。

【検討会委員からの意見】

意見なし。→了承。

2 事前ヒアリングの結果について

資料 2 をもとに事務局より説明。

【検討会委員からの意見】

林委員) 事業実施段階では魚類の専門家を入れてもらいたい。

→了承。

3 これまでの調査結果について

猛禽類(資料 3-1)について事務局より説明。

【検討会委員からの意見】

遠藤委員) クマタカの調査結果は妥当と思われる。ハヤブサは、今後の生息状況に注意してもらいたい。

文献調査結果(資料 3-2)について事務局より説明。

【検討会委員からの意見】

林委員) 魚類でイトヨとあるが、この地域のものは在来でなく、以前に土呂部の養魚場に入ったものが鬼怒川水系に広まってしまった名残である。DNA 鑑定で人為によることが判明しており、那須塩原市の在来のものと混ざらないようにしなければいけない、貴重種というよりも移入種という扱いになる。

→了承。

4 今後の現地調査計画(案)について

資料 4 をもとに事務局より説明。

【検討会委員からの意見】

小金澤委員) 調査計画は妥当である。

林委員) 両生類・爬虫類調査の調査方法で「年齢」とあるが「発育段階(卵、幼生、幼体など)」である。「できるだけ」が重複している。

遠藤委員) 夜行性鳥類の調査時期で、フクロウは 5 月には巣立ちをするのでコールバックの反応がよくないかもしれない。他の種より繁殖時期は早いので冬の時期に 1 回実施したほうが調査の精度は高まる。

事務局) 2 月下旬に 1 回実施する。

→了承。

5 その他

事務局) 第2回の検討会開催時期は、調査結果の中間報告として7月中下旬を予定する。日程、場所等は改めて連絡するとともに、調査結果速報を毎月1回程度送付させていただき、情報共有をしていく。

現地調査で早急に検討が必要な場合は、前倒しで検討会を開催できるよう対応する。

遠藤委員) 文献で国土交通省のダム関連の調査(河川水辺の国勢調査)は、定期的に実施されていて、動植物の確認位置を載っているので参考にしてもらいたい。

事務局) 確認する。

→了承。

<先行調査(猛禽類調査)の実施状況>

	
餌を運ぶクマタカ 令和2(2020)年8月	定点調査風景 令和2(2021)年6月

一般国道121号 日光地区防災事業 自然環境保全対策検討会【第1回】

令和 2(2020)年 12 月 18 日開催

検討会意見対応表

議事	資料	検討会委員の意見・要望	対応
設立趣意書(案) 規約(案)		・意見なし、了承。	12月18日付け 施行
一般国道121号 日光地区防災事業	1	・意見なし、了承。	—
事前ヒアリング結果	2	・意見なし、了承。	—
これまでの調査結果 猛禽類	3-1	・クマタカについては、妥当である。 ・ハヤブサについては、今後の生息状況に注意してもらいたい。(遠藤委員)	—
文献調査	3-2	・魚類でイトヨは、貴重種というよりも移入種という扱いになる。(林委員)	—
現地調査計画(案)	4	・両生類・爬虫類調査の調査方法で「年齢」とあるが「発育段階(卵、幼生、幼体など)」である。「できるだけ」が重複している。(林委員) ・夜行性鳥類の調査時期で、フクロウは5月には巣立ちをするのでコールバックの反応がよくないかもしれない。他の種より繁殖時期は早いので冬の時期に1回実施したほうが調査の精度は高まる。(遠藤委員)	修正する。 2月下旬に1回実施する。
その他		・文献で国土交通省のダム関連の調査(河川水辺の国勢調査)は、定期的実施されていて、動植物の確認位置が載っているので参考にしてもらいたい。(遠藤委員)	確認する。